

企画展示

「杏の実」から
「オリム・ボスの果実」へ

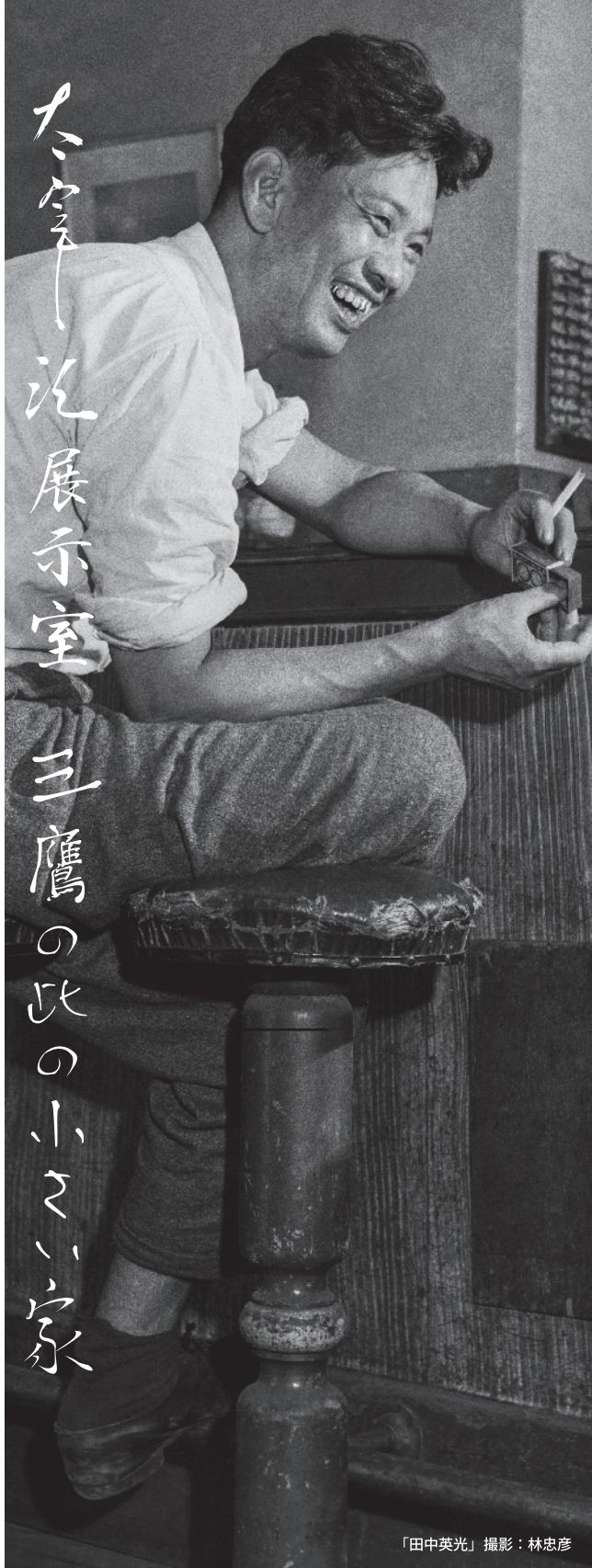
— 田中英光の開花、太宰治という師 —

「太宰治」撮影：林忠彦



太宰治
展示室
三鷹のこの小さな家

「田中英光」撮影：林忠彦



休館日

4月 10、12、13、17、24 日、5月 1、8、15、22、25~31 日、
6月 1、2、5、12、19、26 日、7月 3、10~14、18、24、31 日、
8月 7、14 日（月曜定休、施設メンテナンスによる臨時休館のため）

会場

太宰治展示室 企画展示室（三鷹市美術ギャラリー内）

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 3 - 35 - 1 CORAL 5 階

☎ 0422-79-0033

観覧時間

10 時～18 時 観覧料 無料

主催

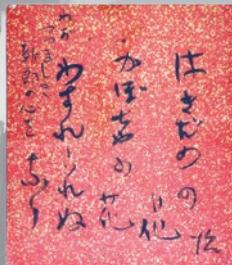
公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団、三鷹市

2023
4/8 SAT
~**8/20 SUN**



太宰治の弟子と言えば、一番に名が挙がるのが田中英光ではないでしょうか。二人の師弟関係は、昭和10年に田中が同人誌に発表した「空吹く風」でその才能に惹かれた太宰が、好意的な葉書を送ったことに始まります。昭和15年に太宰宅に訪れては指南を受けました。ともに無頼派を象徴する存在ではありますが、田中は会社勤めで家計を支えながら度重なる従軍を体験し、太宰とは対極の環境で創作を続けた作家でもありました。戦後、社会情勢に翻弄されながら生きた田中にとって、師の喪失は追い打ちとなりました。太宰が亡くなった翌年11月、太宰の墓前で自殺を図り、太宰の愛弟子という存在を世に再認識させるかのような最期を遂げています。

本年は田中英光の生誕110年
太宰治と田中英光の交友をお楽しみください。



はきだめの花 かぼちゃの花
わすれられぬなり
わがつましき 新郎の心を
昭和12年2月 / 津島家寄託
田中英光と小島喜代の結婚祝いに太宰治が贈った色紙



「若草」昭和14年4月 宝文館

田中が初めて商業誌に発表した作品「鍋鶴」(京城府(現韓国ソウル)の田中から太宰に送られてきた原稿を、美知子が清書して投稿した。発表誌を見て喜ぶ夫人に太宰はいい顔をしなかったという。



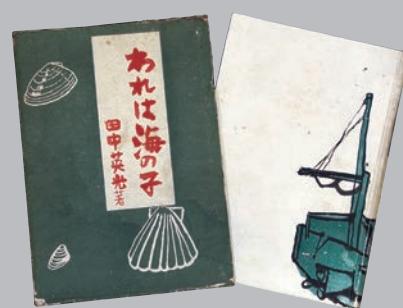
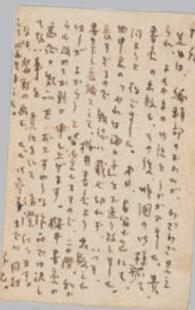
「文学界」昭和15年9月 文藝春秋社

「オリムボスの果実」初出。原稿を太宰に持ち込んだ当時、作品名は「杏の実」だった。太宰によって改題された本作は深田久彌を通じて「文学界」に発表され、田中の出世作となった。

太宰治 桜井均宛

昭和16年3月24日
提供:神奈川近代文学館

田中の「われは海の子」は長編のため、雑誌掲載ではなく書き下ろしで書籍にしてほしいと、師である太宰が依頼している。



田中英光『われは海の子』

昭和16年5月 桜井書店

桜井均が昭和15年に創業した出版社から太宰の推薦で出版。もともと桜井は太宰作品の出版を望んでいたが叶わなかった。

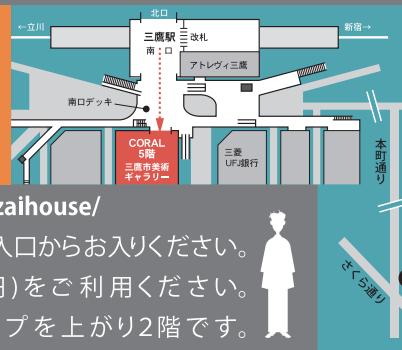
太宰治展示室
三鷹の此の小さい家
☎0422-79-0033

<http://mitaka-sportsandculture.or.jp/gallery/dazaihouse/>

※JR中央線三鷹駅南口デッキを直進し、CORAL2階入口からお入りください。

※駐車場はCORAL地下駐車場(30分200円)をご利用ください。

※駐輪場はCORAL駐車場の入口横のスロープを上がり2階です。



太宰治展示室から徒歩約5分の太宰治文学サロンにもお立ち寄りください。

太宰治文学サロン

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-16-14

☎ 0422-26-9150

●三鷹駅南口より徒歩3分

●駐車場はございません。